

幸せの歌



JA宗谷南

2016NEN
NEW YEAR GOU
~SEASON46~

年頭の挨拶



宗谷南農業協同組合
代表理事組合長



新年あけましておめでとございます。
年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、輝かしい新年を迎えられ、心からお慶びを申し上げます。

また、日頃から農協の各事業の推進に對しましては、格別なる御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

平成27年を振り返りますと、農協改革法案の成立、TPP交渉の大筋合意など、農業・JAにとって極めて大きな情勢変化があった1年でありました。

農協改革につきましては、いまだ十分な理解が進まない中、准組合員制度のあり方や監査の仕組みなどの重要案件が今後の検討課題となっており、改めて地域農業の振興や農協経営に影響が出ないよう訴えていかなければなりません。昨年11月11日に、組合員、JA役員等関係者の方々の参加のもと、第28回JA北海道大会が開催され「北海道550万人と共に創る力強い農業と豊かな魅力ある農村」をメインテーマに、向こう3年間にわたるJAグループ北海道の対応方針を確認致したところであります。

宗谷南農協の生乳生産量は、離農休農が発生する中、前年対比割れも懸念されましたが、乳量増産を目的とし乳牛導入1頭に對して5万円の助成や、1キロ当たり7円の増産プレミアム乳価設定を行なったことにより、組合員の増産意欲を喚起したことや組合員の日頃のご努力の結果、前年対比101.3%（クミカン年度）56,508トン達成することが出来ました。この様な状況の中、組合員のクミカンの内容に於きましては、加工原料乳の価格が3円60銭の値上げで早期決着したことや、副産物である初生犢・F1等の肉用牛価格が高騰したことにより、クミカン精算は近年になく良好な状況で終了する事と思っております。今現在、好調な酪農状況ではございますが、今後も長続きすることは考えづらく、今後想定される乳価の値下げ、生産調整、TPPによる酪農に對する影響などに對して、しっかりと立ち向かえる経営基盤を構築して行きたいものです。

組合事業の年度末収支見込につきましては、組合員の御利用により、販売事業、購買事業等概ね順調に推移しております。又、生産法人設立に致しましては、平成30年稼働を目指し、経営形態等の内容検討の段階でございます。つきましては、今後組合員を交えた検討委員会等を設立し皆様の御意見を頂きながら法人設立を進めていく考えであります。

懸念事項であります不採算部門については、経営改善が求められている中、合理化等を実施しながら解消に努めているところであります。Aコープにつきましては、準職員とパート職員による運営をいたし人員費の削減を行い、又移動購買車につきましては、買い物困難な高齢者や農繁期の組合員のために稼働しており、利用者の皆様に大変喜ばれており、目的

が浸透されて来ていると思っております。メカニックサービスに於きましては、厳しい状況ではございますが、最低限の人数で試行錯誤し数字的に赤字を減らすよう努力しております。今後も組合員皆様の御利用、御協力を仰ぎながら整備事業を継続出来るよう展開をしてまいりますのでご理解を賜りたく宜しくお願い致します。

子会社の（株）アグリサポート枝幸につきましては、取締役が一部変更致しましたが、規模拡大による労働力不足、高齢化による労働力の低下、機械購入による経営の圧迫等の課題に對処すべく農作業の受託を行い組合員皆様の生産の維持拡大、営農期間の延長、経営安定を図ることを目的として中山間地集落事業との協力のもと稼働しております。組合員皆様におかれましては、近年バンカー施設も多く整備されていると思っております。アグリサポート枝幸の御利用を重ねてお願いするところであります。

最後になりますが、組合員並びに御家族様、関係各位の皆様にとつて事故のない健康で豊穡の1年でありますよう心から御祈念申し上げます、挨拶とさせていただきます。

あけましておめでとうございます
昨年は大変お世話になりました
今年も百しくお願いします



年頭の挨拶



北海道農業協同組合中央会

会長 飛田 稔章

組合員並びにJA役職員の皆様方には、御健勝にて輝かしい新年を迎えられたものと心より御慶び申し上げます。

さて、昨年の北海道農業は、一部地域において暴風雨被害が発生するなどの影響がありました。全体的にはおおむね順調な作柄となりました。皆様方におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます。

さて、昨年の11月11日に、組合員やJA役職員等、関係者の方々の参加のもと、第28回JA北海道大会が開催されたところです。

「北海道550万人と共に創る 力強い農業と豊かな魅力ある農村」をメインテーマとして、向こう3か年にわたるJAグループ北海道の対応方針を確認いただきました。

組合員・JA・連合会・中央会が、各役割を再確認した中で、JAグループ北海道の英知を結集し、基本目標の達成に向け取り組んでいくと共に、北海道550

万人から信頼され、ともに歩んでいくJAグループ北海道を目指すこととしております。関係各位の特段なるご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

平成27年は、農協改革法案の成立、TPP交渉の大きな情勢変化があつた1年でした。

農協改革については、その主要な目的でもある法改正と農業所得向上の関連性などについて、いまだに十分な理解が進まない中、准組合員制度のあり方や監査の仕組みなどの重要案件が今後の検討課題となっており、改めて地域農業の振興や農協経営への影響がないよう、政府に対する働きかけを含め、関連する取組みを進めていく必要があります。

一方、TPP交渉に関しては、交渉参加12か国の閣僚会合を経て、昨年の10月5日に大筋合意がなされましたが、守秘義務を盾に交渉に関する情報開示や国民的議論がないままに、大筋合意という結果に至ったことに対して、強い憤りを覚えるところです。

今後、通常国会においてTPP交渉に係る国会審議がなされる予定ですが、改めて、政府並びに各国会議員に対して、今回の合意内容の全容と影響、さらには国会決議との整合性について十分な説明責任を果たすとともに、生産者の不安を払拭し、持続可能な北海道農業の確立に向け、万全な対応がなされるよう強く求めていく必要があります。

世界規模での異常気象の発生、人口増加、経済情勢の変化などを背景に、国際的な食料の需給事情は常に不安定な要因を抱えており、我が国として、先を見据えた中で食料自給率の確保などによる食料の安全保障体制をいかに確立していくかが問われています。

ます。言うまでもなく、農業は、食料の安定供給という、国民生活に欠かすことができない極めて重要な役割を担っている生命産業であり、その役割は未来永劫変わることはありません。

我々農業者・JAグループは、その責任感と自負心のもと、改めて協同の精神に立ち返った中で、現下のさまざまな課題を克服すべく、力を合わせていくとともに、農業・JAに対する幅広い理解と共感を得る取組みを積極的に進めながら、長年にわたり先人が築き上げてきた本道農業並びに農業協同組合の基盤をさらに発展させ、後世に継承するよう、ともに頑張ろうではありませんか。

今年の干支は申年(さるどし)です。一説には、申は、伸ばすという意味があり、「草木が十分に伸び、実が成熟していく時期」を表しているとのことでもあります。今年は、この申年にあやかり、天候に恵まれ実り多い充実した1年となりますよう、併せて、北海道農業並びにJAグループ北海道の一層の発展を心よりご祈念申し上げ、新年にあたってのご挨拶といたします。



新年の挨拶



謹んで新春の御挨拶を申し上げます。

旧年中は部員並びに組合員様、御家族様、また宗谷南農業協同組合を始め各関係機関の皆様方には、日頃の青年部活動に対しまして御理解、御協力を頂き誠にありがとうございました。

農家戸数、飼養頭数の減少といった生産基盤の弱体化が懸念される中、旧年はPPP大筋合意、農協改革など私たち酪農家を取り巻く環境がとてつもないスピードで変化しつつありました。

その様な中で、国の方針は収益性向上や生産基盤の維持・拡大のための競争力向上、輸入飼料依存から脱却するための自給飼料生産拡大、経営安定のためのセーフティネットの3つの柱を重点的に置くとの政策の推進がでており、このような情報化社会で少しでも、経営にプラスになる情報を手し、自分たちの事を発信することが非常に重要な時代になってきております。

営農面でも旧年は6月から8月の長雨と天候に左右され作業も予定通りに進まぬ日が続きました、草地型酪農が多い宗谷地区としましては、良質な粗飼料が生乳生産、個体の健康管理の大部分になる

ため頭を悩ませる年でした。ここ数年、異常気象も恒久化し、異常気象とは呼べなくなってきたように感じます。

青年部活動としましては、旧年は新規部員が、5人増え大変にぎやかな部活動が行えました。

若い後継者が減る中で、少しでも組織というものに入って一致団結する素晴らしさを知っていただきたく、これからも勧誘を強く進めていくと共に、4Hクラブとも連携し若い人が入部しやすい青年部にしていきたいと思っております。

食育活動も、紙芝居、農村ファームステイなど例年通りですが、歌登地区の藤山牧場のファームステイが実を結んで学校からの見学依頼、また紙芝居では保育所のほうから酪農現場の見学をしたいと打診を頂き今年さらなる躍進が期待できそうです。

又農水省ファームステイもあり、風烈布地区の高橋牧場と、歌登地区の関口牧場に受け入れをして頂き、農水省職員との交流もでき大変意義のある事業だったと思えます。

歌登地区でのサマーフェスタ、枝幸でのよくばりフェスタ、流水フェスタなど、消費者との交流も「みるきいちゃん」のおかげで大変盛り上がり、年々交流の形が出来上がっていくのが感じられます。

最後になりますが旧年、大変不慣れな青年部運営で迷惑や不快な思いをさせてしまった事があったかと思えますが、それを反省しつつ今後の青年部活動や地域発展のために今後も頑張っていきたいと思えますので、これからも御指導、御鞭撻のほどをよろしくお願いし、新年の挨拶とさせて頂きます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

宗谷南農協青年部

部長	今尚春
副部長	松田尚
副部長	大塚悟
理事	関口真也
理事	向井地善史
理事	森次勇
監事	井上英之



新年の挨拶



J A 宗谷南女性部
部長 奥出 幸恵
きい

平成28年の初春を迎え、一言御挨拶申し上げます。
明けましておめでとうございます。皆様穏やかに新年を迎えの事と御慶び申し上げます。

皆様には常日頃より当女性部に対しましての御指導、御協力を頂いております事を紙面をお借りし、失礼とは存じますが、御礼申し上げます。

さて、昨年も天候に悩まされる1年間だったのではないのでしょうか。特に二番草収穫期には天候が定まらず、良質粗飼料確保に苦労を強いられた牧場もあつたように思います。

また、10月にはTPP交渉が大筋合意に至り、農林水産物の8割が即時、もしくは段階的に関税撤廃の対象になり、かつてない農畜産物市場の開放がなされる結果となりました。全道女性部リーダー研修会においてもTPPから北海道農業を守り、食の安全・安心の必要性、農業農村の果たす機能など農業理解促進活動の展開と国産農畜産物に対する支持と信

頼を確保し、農業の担い手が将来にわたり希望を持って営農を維持出来る様に運動を進めていく事を特別決議致しました。10月以降食品店舗の食肉コーナーにアメリカやオーストラリアの牛肉が多く並ぶようになった気がするのは私だけででしょうか。

今年から選挙権が18歳からとなり、選挙権の改正は70年ぶりと言います。いつの世も「今の若い者は」と言う言葉を聞きます。私が若い頃はそう言われ、そして今は私が言っています。先日何かの書面で「今の若い者は」と言う人はその若者が居るから今の私たちがいるのだと書いてありました。確かに言われてみればこれから先、益々高齢化が進みます。それは農業農村だけに限らず、日本全体がそうなりつつあります。若者が18歳から選挙権を持って、良かったと思える世の中・政治であつてほしいと願わずにはいられません。

3月には新幹線が北海道へ上陸します。北海道の農畜産物がもっと皆さんに浸透し、安心・安全な物を次世代を担う子供たちの食となるよう一生産者として消費者へのアピール、そして生産に努めたいと思っております。

最後になりますが、本年もどうぞ宗谷南農協女性部への御指導、御協力を宜しくお願い致しますとともに、皆様の健勝を御折念申し上げます、挨拶と致します。

宗谷南農協女性部

部長	奥出 幸恵
副部長	小林 幸恵
副部長	小池 静子
理事	樋口 睦美
理事	日向 利苗
理事	日向 早苗
監事	小椋 八重子



2016



宗谷南農業協同組合



代表理事組合長	向井地 信之
理事・総務委員長	辻 弘道
理事・業務委員長	小野寺 俊一
理事・生活店舗・整備工場運営特別委員長	小林 政夫
理事・総務副委員長	木村 浩
理事業務副委員長	下山 勲
理事・生活店舗・整備工場運営特別委員長	山崎 幸夫
理事兼参事	寺前 孝義
理事兼金融・共済部長	清野 盛
代表監事	高橋 壮治
監事	開地 保
員外監事	平田 勝一郎
他職員一同	

宗谷南酪農ヘルパー利用組合



他職員一同

組合長	小林 政夫
副組合長	安井 一晃
理事	桜庭 明彦
理事	澤田 和人
理事	浜口 昌拡
理事	山岸 也須彦
理事	高橋 博則
代表監事	政木 大治
監事	石田 幸也
他職員一同	

宗谷南乳牛検定組合



組合長	下山 勲
副組合長	今 尚春
理事	関口 真也
理事	山岸 也須彦
理事	向井地 善史
理事	井上 英之
代表監事	藤山 祐介
監事	高橋 慶大

宗谷南乳質改善協議会



監事	監事	副会長	副会長	会長
大塚	中野	生方	山崎	向井地
悟	隆	順亮	孝敏	信之

宗谷南農協年金友の会



監事	理事	理事	理事	副会長	会長
樋口	戸澤	高橋	手嶋	菅野	菅原
幸子	敏子	正巳	金造	勇	重道

謹賀新年

昨年中は大変お世話になりました。衷心よりお礼申し上げます。

今年も自己研鑽を重ねて知識と技術の向上を図ってまいります。

何とぞ、昨年と変わらぬご利用・ご活用を賜ります様お願い申し上げます。

皆様におかれましても、健康で穏り多い年であります様ご祈念申し上げます。

枝幸郡枝幸町南浜町368番地17
株式会社 アグリサポート枝幸
代表取締役 向井地 信之
外 役 職 員 一 同

